

資料3

第7回内分泌攪乱化学物質問題に関する国際シンポジウム(名古屋)

アンケート結果

(1) アンケートの目的

国際シンポジウムの参加者に参加直後の感想を伺い、今後の国際シンポジウム運営の参考に資する。

(2) アンケートの方法

・配布方法：受付の際に、アブストラクト集とともに配布。

・回収方法：

その日の最終プログラム終了と同時に、会場出口に回収箱を設置。

また、プログラム終了前でも受付に回収箱を設置し回収。

(3) 回収率

《一般向け》 332/約900 (約35%)

《専門家向け》 127/約600 (約20%)

(4) 回答者

《一般向け》

・年齢 50代 (29.5%)、40代 (21.1%)、30代 (17.5%)

・性別 男性 (65%)、女性 (23%)、未記入 (12%)

・職業 行政関係者 (32.2%)、その他研究者 (16.6%)、化学物質関係業界 (16.3%)、

・未記入 (21.2%) 等

《専門家向け》

・年齢 40代 (24%)、50代 (23%)、30代 (20%)

・性別 男性 (67%)、女性 (24%)、未記入 (9%)

・職業 その他研究者 (38%) 化学物質関係業界 (22%)、行政関係者 (26%)、
学生 (9%) 等

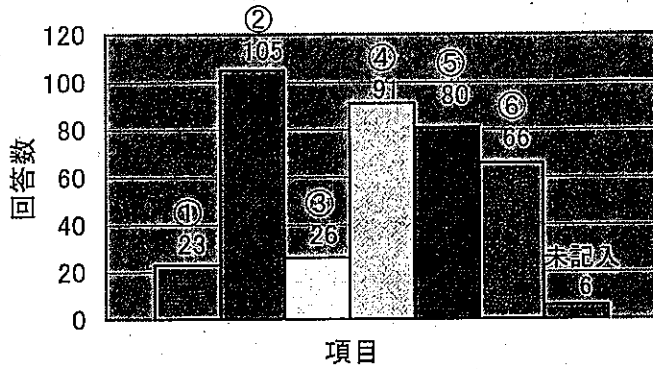
アンケート集計結果(一般向けプログラム)

アンケート総数:332

1. 一般向けセッションを知った媒体(複数回答可)

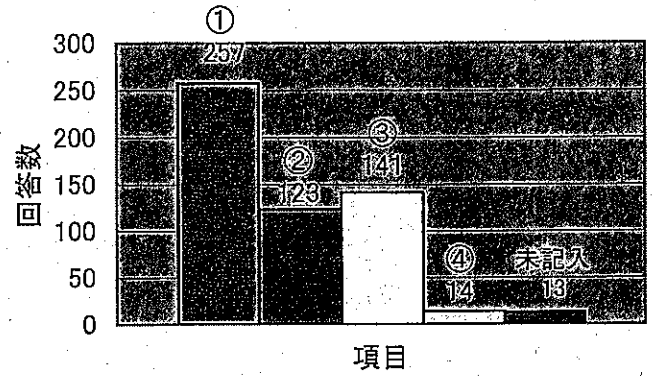
2. 申し込み時の関心(複数回答可)

Q1 一般向けセッション・媒体



- ①新聞・雑誌・情報欄
- ②学会からの案内
- ③知人の紹介
- ④自治体広報
- ⑤環境省ホームページ
- ⑥その他
- 未記入

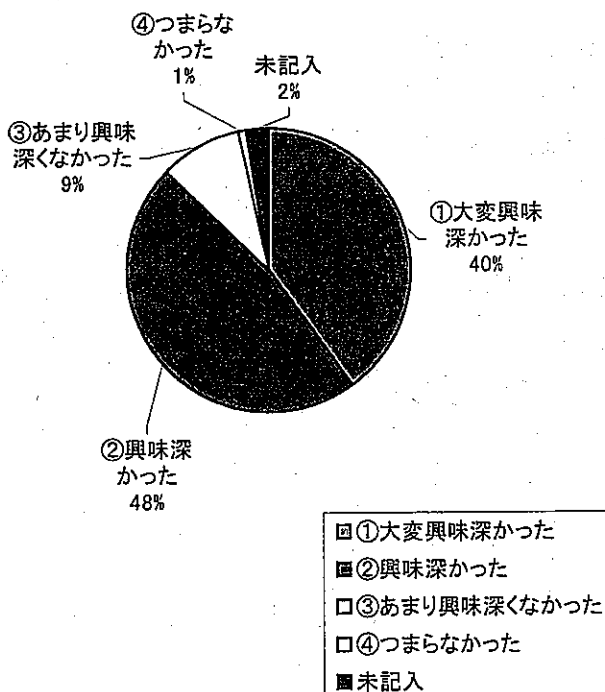
Q2 関心



- ①養老先生の特別講演
- ②取組の現状
- ③パネルディスカッション
- ④その他
- 未記入

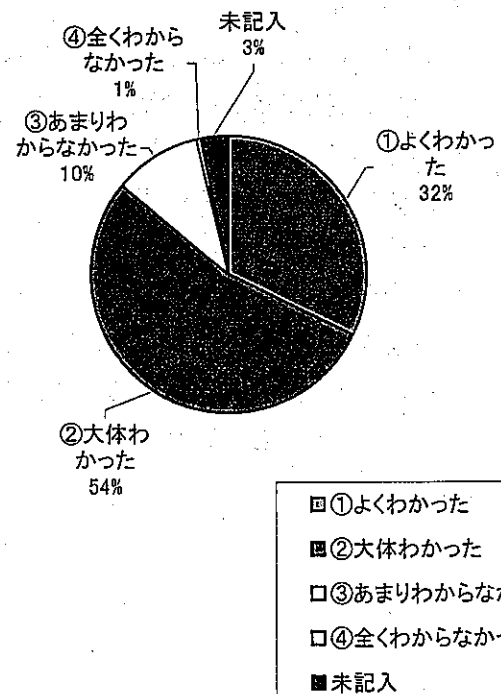
3. 一般向けセッションの感想

Q3-1) 養老先生特別講演:興味



- ①大変興味深かった
- ②興味深かった
- ③あまり興味深くなかった
- ④つまらなかった
- 未記入

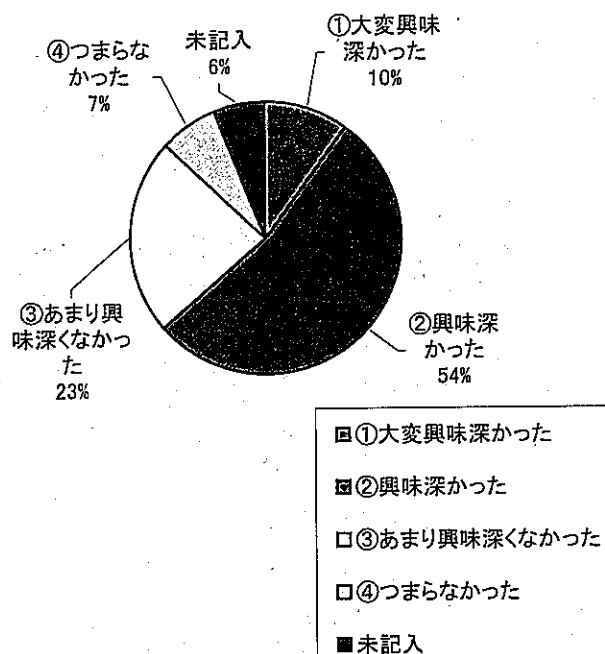
Q3-2) 養老先生 特別講演:理解



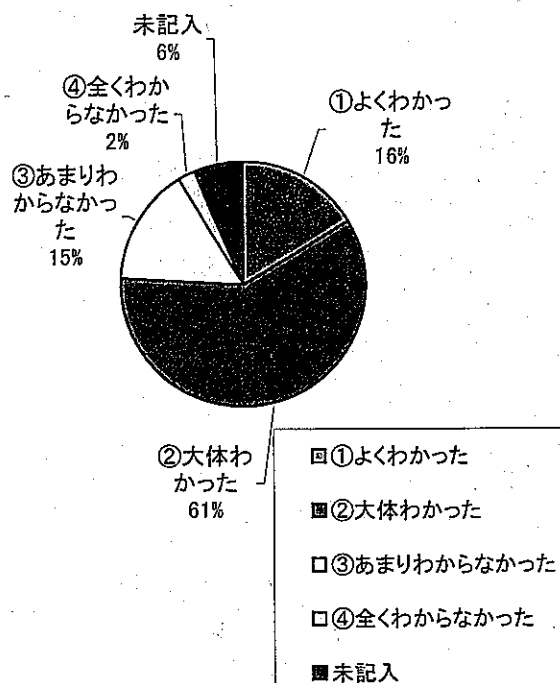
- ①よくわかった
- ②大体わかった
- ③あまりわからなかった
- ④全くわからなかった
- 未記入

アンケート集計結果(一般向けプログラム)

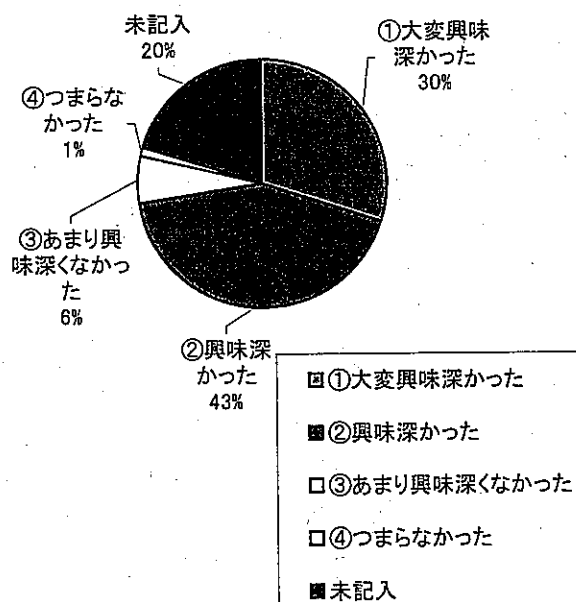
Q3-3) 取組の現状:興味



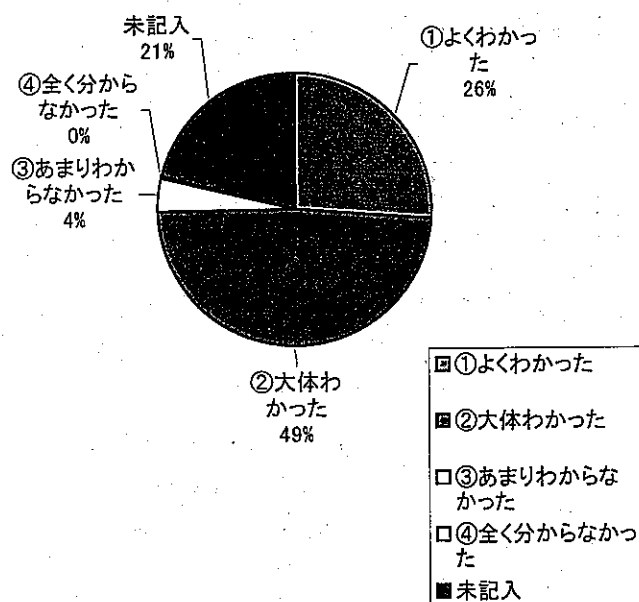
Q3-4) 取組の現状:理解



Q3-5) パネルディスカッション:興味

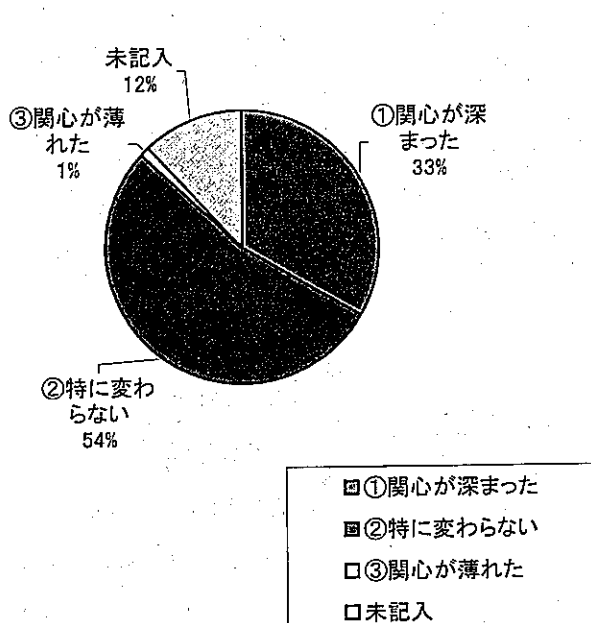


Q3-6) パネルディスカッション:理解

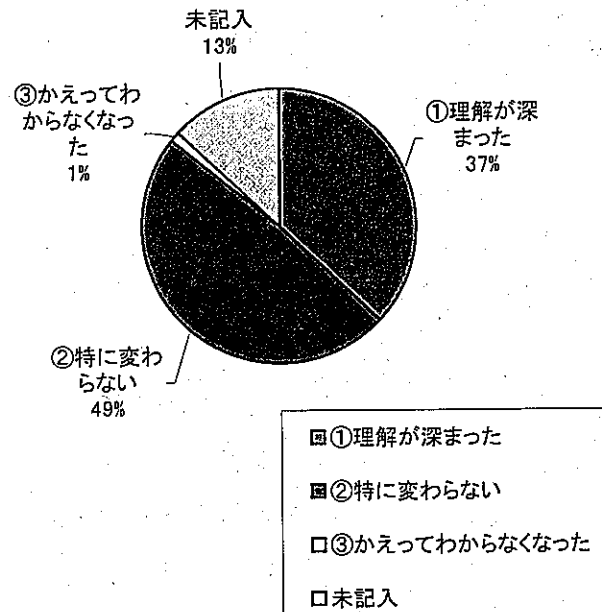


アンケート集計結果(一般向けプログラム)

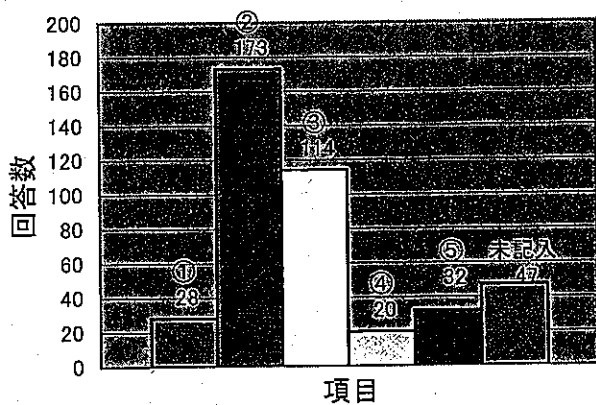
Q3-7)- i セッション全体:関心の程度



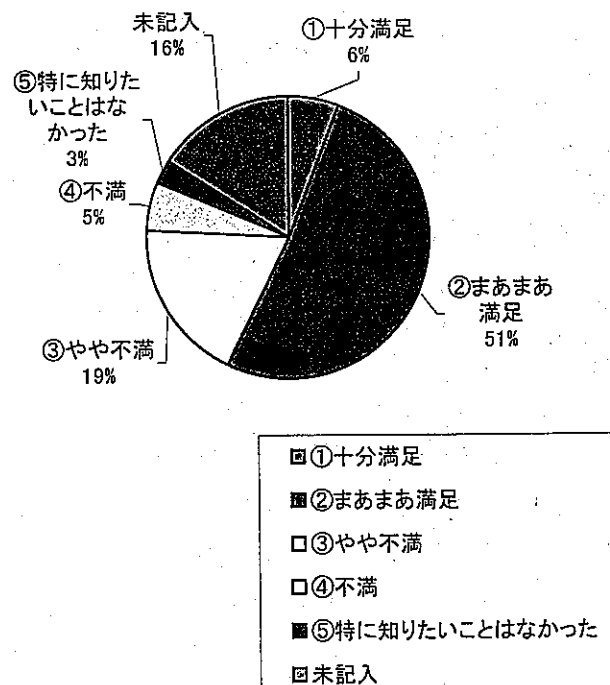
Q3-7)- ii セッション全体:理解の程度



Q3-7)- iii セッション全体:心配すること



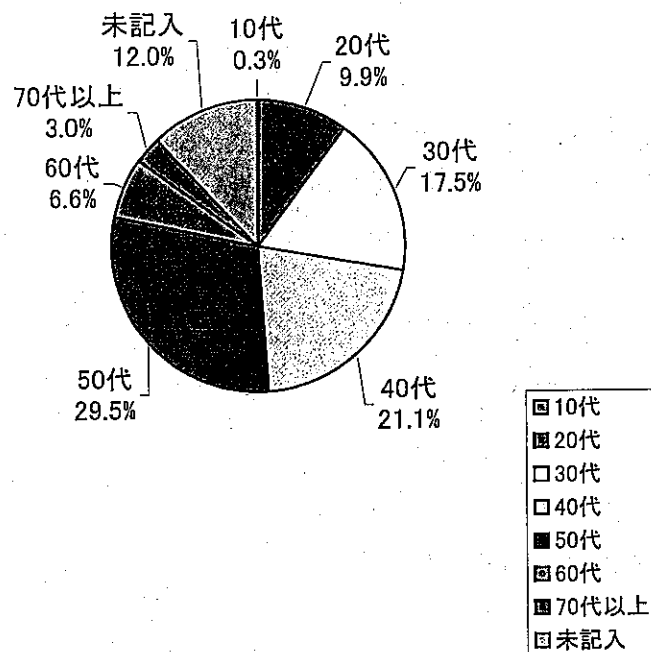
Q3-8) セッション全体:満足度



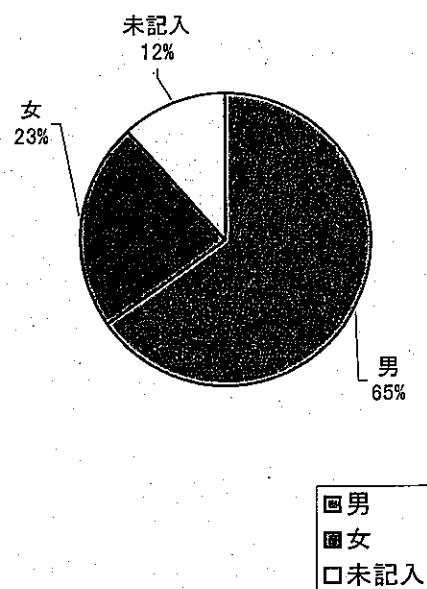
アンケート集計結果(一般向けプログラム)

4.アンケート回答者 属性

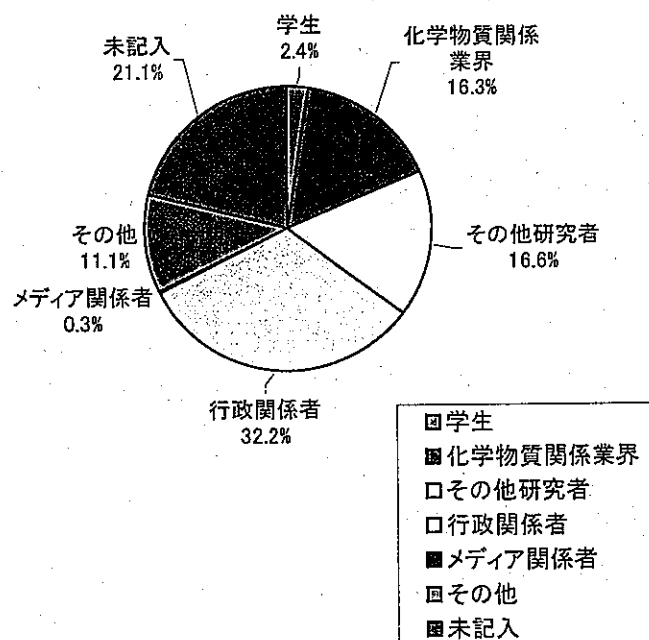
年齢



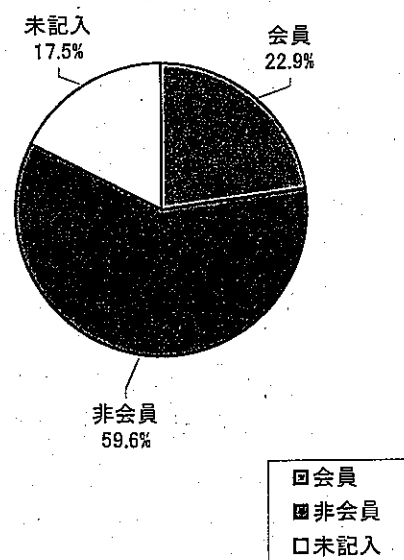
性別



職業



学会



自由記載意見(一般向けプログラム) 主な意見

I プログラムについて

1. プログラム全体

- ・一般向けは休日にしたらどうか。仕事している人でも参加できる時間帯にしてほしい。
- ・一般向けセッションの目的がよくわからない。講演、取組現状、パネルがばらばらだった。
- ・もっとイントロダクションを多くすると多くの方の理解が深まると思う。
- ・カメラのシャッター音がうるさかった。
- ・年に何回もこのような場を作してほしい。皆で考える機会を作してほしい。
- ・シンポジウムは廃止を含めた見直しが必要。税金の無駄遣い。

2. 開会式について

- ・あいさつが悪い。貴重な時間の中、30分も挨拶に費やしている。

3. 特別講演について

- ・ホルモンと関係があまり感じられない。
- ・題材が難しいせいか、話の内容も難しかった。
- ・養老先生の深い考え方には新たな発見がありおもしろかった。
- ・もう少し、養老先生の話を聞きたい。また来てほしい。
- ・特別講演だけを聴いて帰るひが多かった。

4. 取組の現状について

- ・内容がわかりにくく、つまらなかった。わかりやすい情報提供をしてほしい。
- ・現状報告の時間が短い。

5. パネルディスカッションについて

- ・会場からの意見を吸い上げてほしい、一般参加のシンポジウムにしてほしい。
- ・メンバーが企業タイプの方が多かったと思う。
- ・リスク評価の研究者に従事している方が参加したことはよかった。
- ・どのような対策をたてるのかの方が重要で、全体の方向性の現状認識が甘い。
- ・学校での教育のセッションは取り上げ方の巧みさで意味があった。
- ・進め方、様々な立場からの声がリアルでよかった。
- ・司会の方のテンポのよさがおもしろさにつながった。

II 今後について

1. 希望テーマ

- ・今現在の取り組みの具体例を出してほしい。
- ・人体への影響、子供の健康影響についてもっと知りたい。
- ・野生生物への影響、経年(長期)的な分布の変化
- ・影響評価、分析の部分にもう少し力を入れてほしい。
- ・リスクコミュニケーションの実際を紹介する形式をとってほしい。
- ・内分泌かく乱作用以外に関するもの・・・発ガンのメカニズム、化学物質過敏症、ゴミ問題

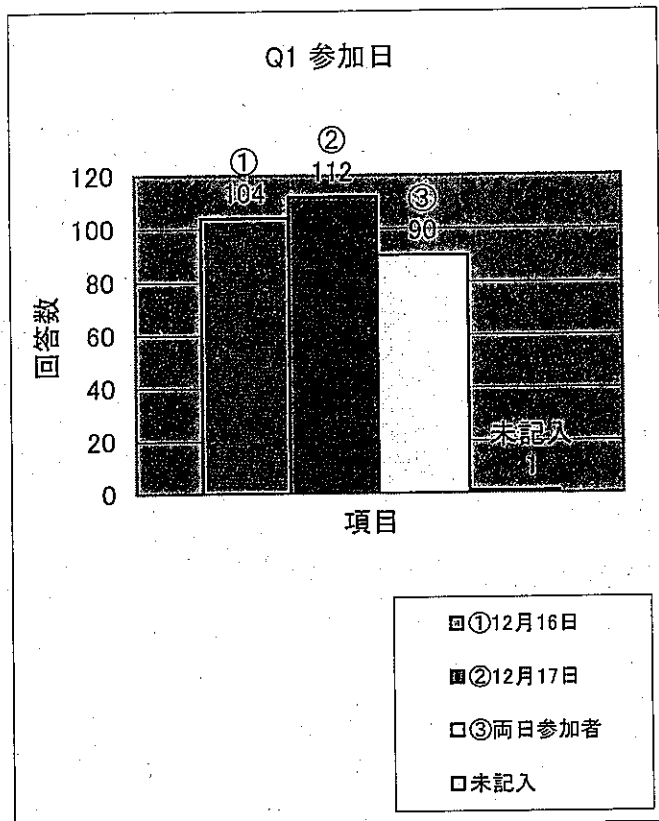
2. 希望講師

- ・過去に特別講演いただいた方の話を再度聞きたい。(養老孟司先生:4名)
- ・リスク評価の専門家(中西準子先生:3名)。
- ・現場で実践されている方からの発表を希望する。
- ・TV関係者、報道関係者、研究者。 等

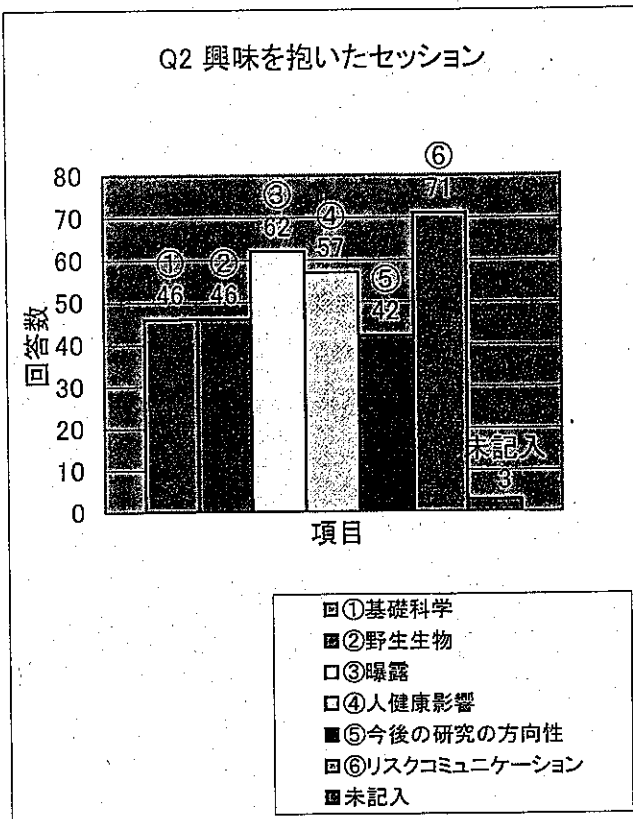
アンケート集計結果(専門家向けプログラム)

アンケート総数: 127

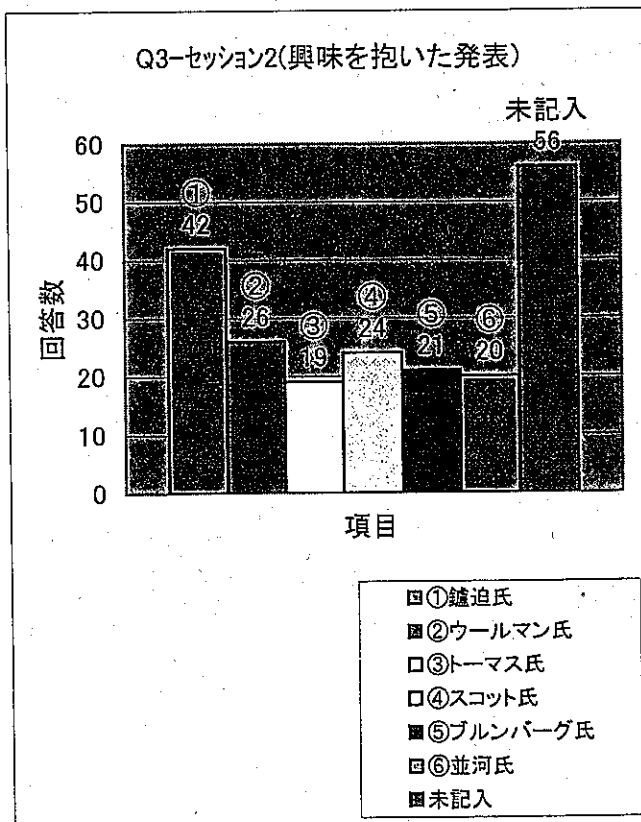
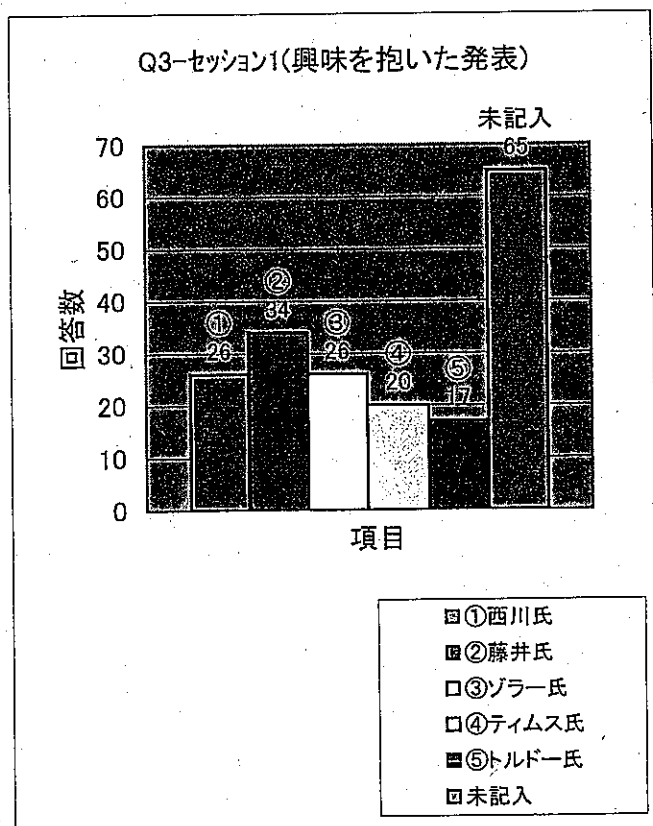
1.参加日



2.興味を抱いたセッション(複数回答可)



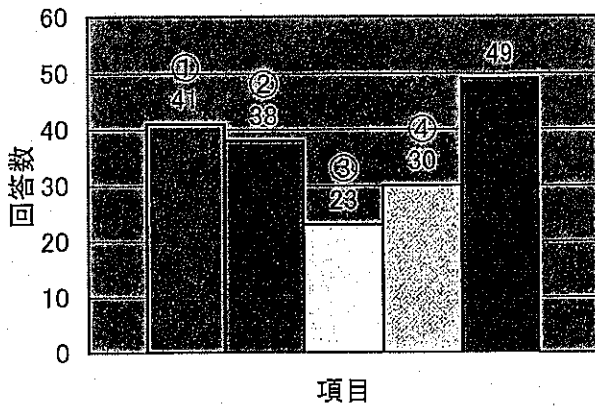
3.セッション別 興味を抱いた発表(複数回答可)



アンケート集計結果(専門家向けプログラム)

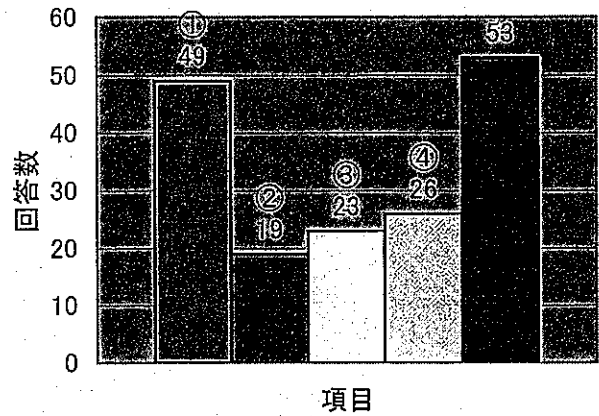
アンケート総数:127

Q3-セッション3(興味を抱いた発表)



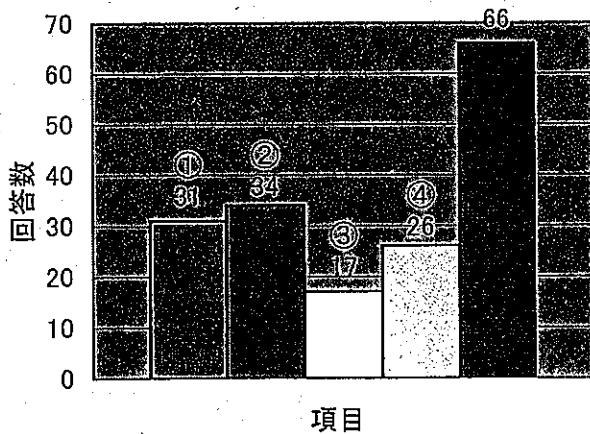
- ① 高田氏
- ② バークマン氏
- ③ クリーガー氏
- ④ コルテンカンブ氏
- 未記入

Q3-セッション4(興味を抱いた発表)



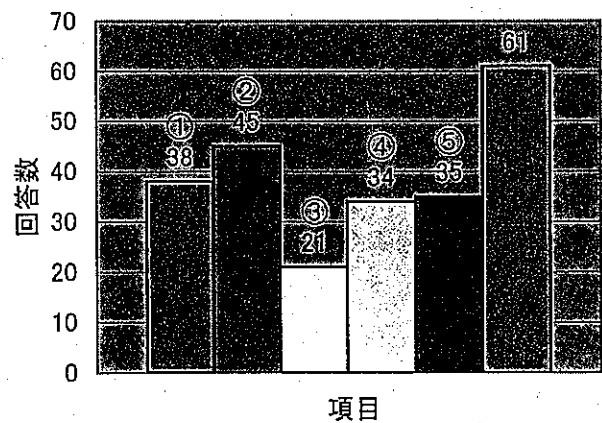
- ① モカレリ氏
- ② シルバーゲルド氏
- ③ ニードハム氏
- ④ 塩田氏
- 未記入

Q3-セッション5(興味を抱いた発表)



- ① ペターソン氏
- ② 黒田氏
- ③ ハッチンソン氏
- ④ 岸氏
- 未記入

Q3-セッション6(興味を抱いた発表)



- ① 山形氏
- ② 日垣氏
- ③ 吉川氏
- ④ 木下氏
- ⑤ 松井氏
- 未記入

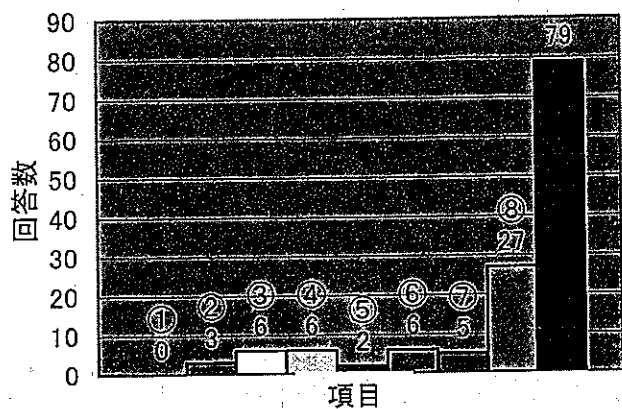
アンケート集計結果(専門家向けプログラム)

アンケート総数:127

(4.5.別紙参照)

6.会場内で気になったこと(複数回答可)

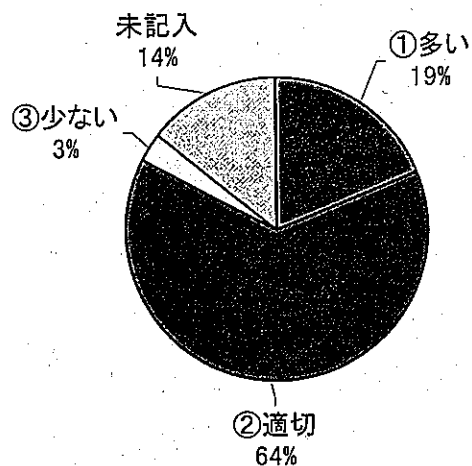
Q6-1) 会場内で気になったこと



項目

- ☐ ①騒がしかった
- ☐ ②見づらかった
- ☐ ③聞き取りにくかった
- ☐ ④休憩時間が短かった
- ☐ ⑤机が欲しかった
- ☐ ⑥席が狭かった
- ☐ ⑦記者やカメラマンの動き
- ☐ ⑧その他
- ☐ 未記入

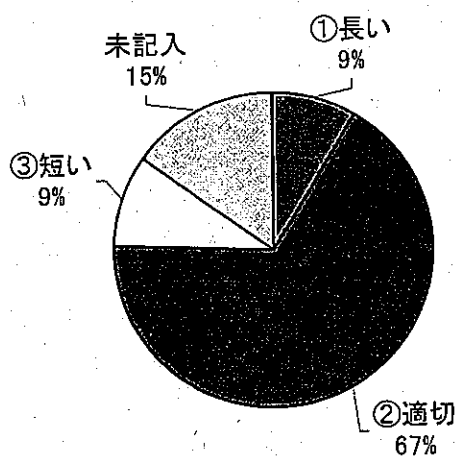
Q6-2) 演者数について



②適切
64%

- ☐ ①多い
- ☐ ②適切
- ☐ ③少ない
- ☐ 未記入

Q6-3) 講演時間について



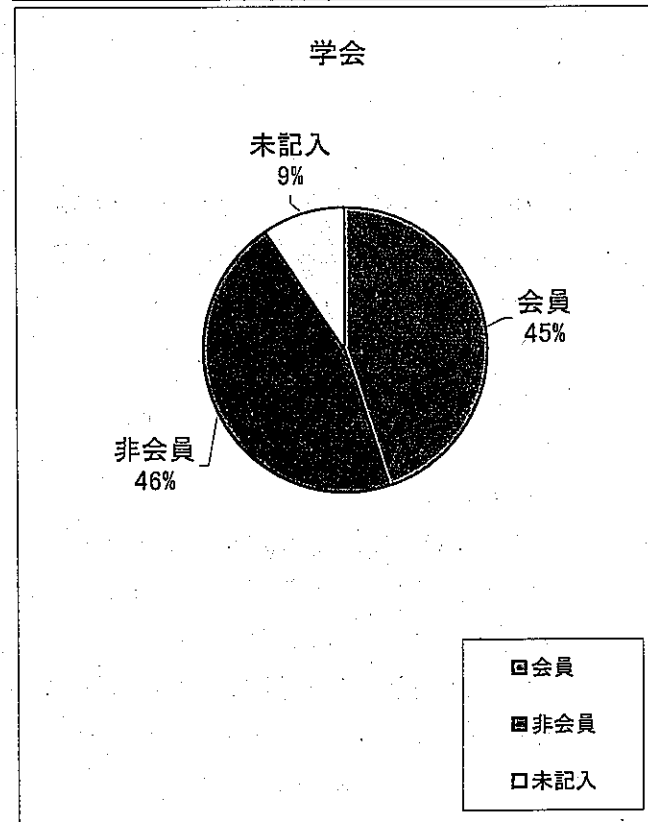
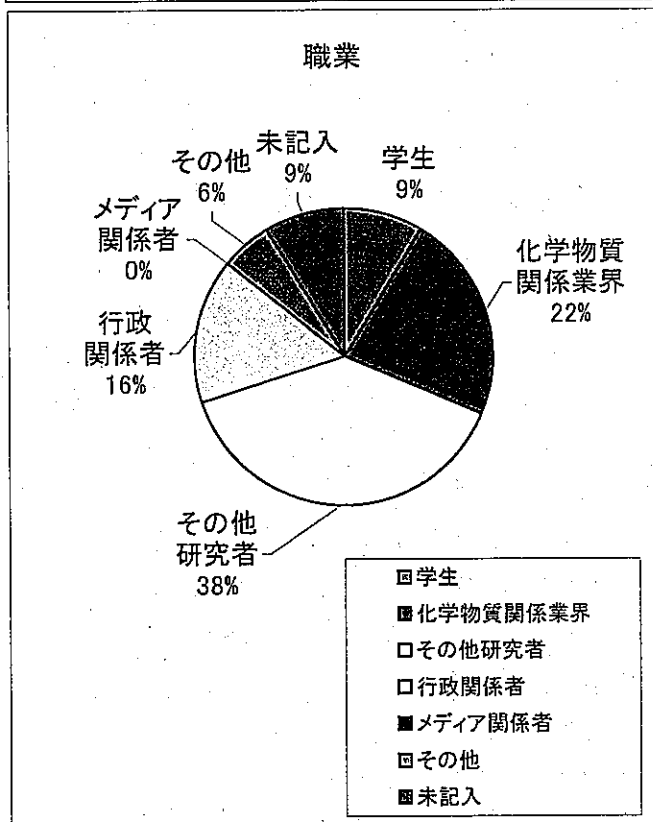
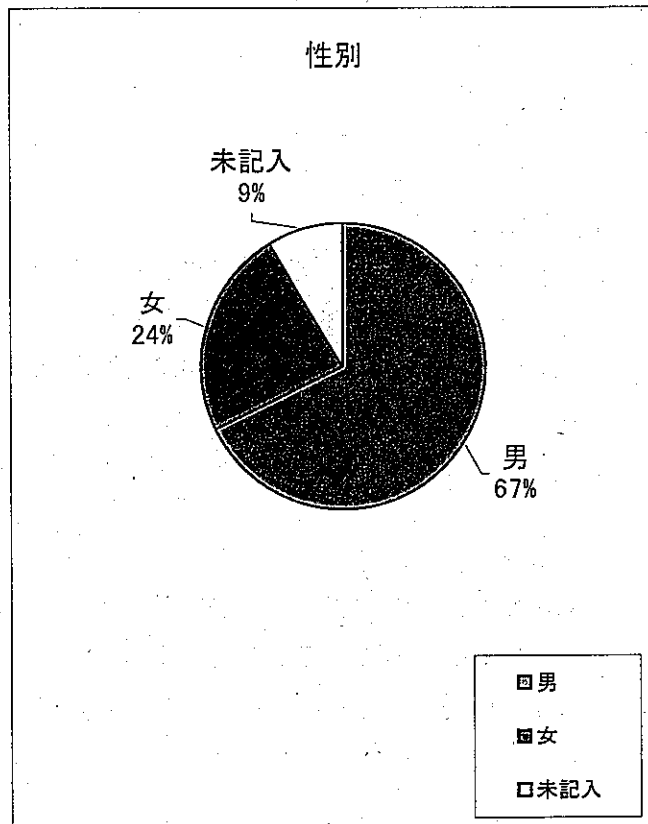
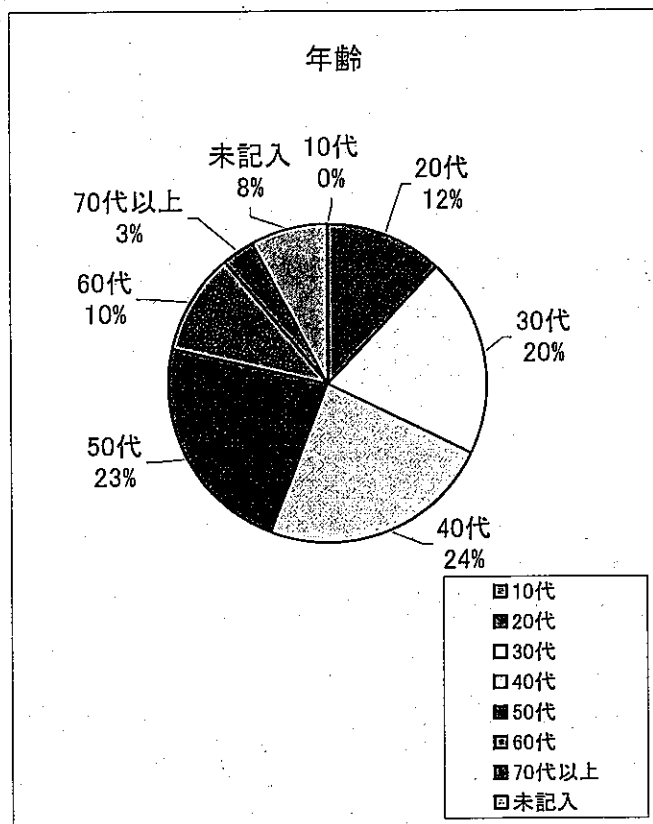
②適切
67%

- ☐ ①長い
- ☐ ②適切
- ☐ ③短い
- ☐ 未記入

アンケート集計結果(専門家向けプログラム)

アンケート総数:127

7.アンケート回答者 属性



自由記載意見(専門家向けプログラム) 主な意見

I 問題点

1. 運営について

- ・プログラム・アブストラクト集は早めに初日から配布すべきである。題名だけでも事前に知りたかった。
- ・各セッションでの発表数が多い。しぼるべき。
- ・終了は夕方5時頃が適当。夕方の時間が遅すぎる。
- ・午前、午後ともコーヒープレイクがほしかった。
- ・ポスター展示とシンポジウム会場をもっと近くにすべき。

2. 内容について

- ・セッション6はいろいろな人に参加してもらう必要がある。一般セッションでもよかった。
- ・ネガティブな報告についても発表してほしい。
- ・これまでの問題点を整理する総括セッションを作してほしい。

II 今後の希望

1. 課題・分野について

- ・リスクコミュニケーションのセッションは継続してほしい。今後のリスコミのあり方を検討してほしい。
- ・野生生物分野等への環境ホルモン作用に関すること。
- ・ヒトへの影響に関すること。
- ・暴露とリスク評価に関すること。
- ・基礎科学的な分野に関すること。

2. 講師等

中西準子(産総研)、島田清司(名古屋大学)、高菅卓三(島津テクノリサーチ)、原田正純(熊本学園大)、河村葉子(国衛研)、渡辺正(東大)、田谷一善(東農工大)、高橋みち雄(東大、味の素)、井口泰泉(自然科学研究機構)、森千里(千葉大)、鐘迫典久(国環研)、梅原克彦(日本国連環境計画ファンデーション委員)、開正理恵(環境情報科学センター)、加藤純子(三共)、関澤純(徳島大学)

Rex Hess(Illinoi)、Thomas Knudsen、デア・コルボーン、ラインダース(オランダ)、Walter Giger(Swiss)、

John Sumpter(UK)、Susan Jobling(UK)、Vom Seal(ミズーリ大)、リンダ(米 EDA 長官)、Guo(台湾)、RT.Zoeller

(敬称略 表記はアンケート記載名に準拠)